

1. 教員および授業の概要

①教員名： 高 一 (Ko II)

②担当科目

博士前期課程：北東アジア研究指導 I～IV

③教員のプロフィール

一橋大学大学院法学研究科修士課程修了 法学修士

一橋大学大学院法学研究科博士課程修了 博士（法学）

一橋大学大学院法学研究科契約講師、ソウル大学校国際問題研究所客員研究員、成蹊大学アジア太平洋研究センター研究員、島根県立大学北東アジア地域研究センター嘱託助手などを経て現職。

④所属学会

日本国際政治学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

冷戦期国際関係史

朝鮮半島をめぐる国際関係史

韓国・北朝鮮の外交史

南北朝鮮関係史

第2次世界大戦終結後の朝鮮半島での政治展開

⑥研究指導方針

院生本人の希望を聞き、十分な討議を経たうえで研究テーマを設定する。学術研究上の意義と社会的意義を兼ね備えた研究テーマになることを目指す。

⑦指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

第2次世界大戦終結以降の国際関係史

南北朝鮮（韓国・北朝鮮）の国際関係

南北朝鮮関係

2. 研究業績リスト

①著書

『北朝鮮外交と東北アジア 1970-1973』信山社、2010年。

②論文

「朝鮮民主主義人民共和国の対ソ『統一攻勢』と中国ファクター：1949-1950」『一橋論叢』第127巻第1号、2002年1月。

『北朝鮮問題』解決への二つの課題』『現代思想』第35巻第2号、2007年1月。

「1970年代前半における韓国の対ソ接近策と韓ソ関係」『一橋法学』第6巻第2号、2007年7月。

「日朝関係と朝鮮総聯：1971-1972」『アジア太平洋研究』第34号、2009年11月。

「朝鮮戦争とその後：北朝鮮からみた停戦協定体制」『アジア太平洋研究』第39号、2014年11月。

「朝鮮停戦協定の変容と東北アジア：1970年代国連軍司令部解体をめぐる国際政治から考える」『PRIME』第41号、2018年3月。

「朝中関係の復元と停戦協定体制の行方」『現代思想』第46巻第12号、2018年7月。

3. 学生に対するメッセージ

大学院に在籍し研究の世界に身を置くということは、その道のプロフェッショナルを目指すということになります。当然ながら、自らが選んだ研究テーマに関して、世界をリードしていくのだという気概が求められます。